

# 令和6年度 わくわく園庭作りプロジェクト 2・3学期号

## わくわく園庭作りプロジェクトとは

園庭を「心や体がわくわく・ドキドキして思わず関わりたくなる場」にするために、5歳児が中心にアイデアを出し、子どもと職員が一緒につくっていくプロジェクトです。

令和4年度から取り組みを開始しました。3年目の取組です。

令和5年度には、推進委員会を立ち上げ、下の図の「池作り」「植栽」「虫の呼び込み」

今年度は、全保育者が園庭環境を見直す下の5つのグループのいずれかのメンバーになって、園庭が子どもたちの「主体的な遊びの場」「豊かな経験をする場」になるように取り組んでいます。

| 自然環境の充実 |    |        | 遊びの充実 |      |
|---------|----|--------|-------|------|
| 池作り     | 植栽 | 虫の呼び込み | ごっこ遊び | 運動遊び |

今年度の2・3学期中の取組の様子、今年度の成果や次年度に向けた方向を各グループからお知らせします。



## 【池作りの取り組み】

5歳児のクラスで育てていたメダカの稚魚が池に放流できるまでに育つのを待って、10月に5歳児が見守る中、放流しました。放つ前には、5歳児と改めて約束事を確認しました。その様子を3・4歳児クラスはモニターを通して見て、みんなでメダカを見守っていくことを伝えました。

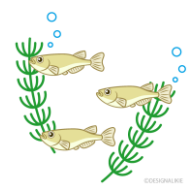
これまで、池の網の開け閉め、餌やり、ゴミ取り等の管理は「池作り」グループの担当職員が行い、その様子を見て興味をもった子どもたちが手伝っていました。1月からは担当職員は網の開け閉めを行い、それ以外のお世話は5歳児にしてもらうことにしました。

(成果)

乳児部の子も含めて、池の様子を気にかけてメダカを見ている姿が増えました。また、1月から始めた5歳児の当番も仕事に分かって丁寧にお世話をしてくれる様になり、いつも池の水、周囲が綺麗になっています。

(次年度に向けて)

メダカが卵を産み、孵化して池のメダカが増える様に子どもたちと話し合いながら、環境を整えていきたいと思います。次年度の新5歳児が進級当初から世話を引き継げるように、今年度のうちに、現5歳児から世話の仕方を聞き、経験しておけるように計画しています。



## 【植栽の取り組み】

6月にアサガオやヒマワリ、マリーゴールド、オモチャカボチャ、オシロイバナなどが、9月には花をつけて花壇がにぎやかになりました。そこで、植栽グループのホワイトボードを使って草花を使った遊びを紹介すると、それを見た幼児部の子どもたちが真似をして遊ぶ姿がありました。乳児部の子どもたちも、幼児部の子たちが遊んでいる様子を見て草花で遊ぶ姿がありました。10月、11月になるとハーブやネコジャラシ、落葉などを、砂で作ったケーキに飾ってみたり、摘んで花束のようにしたり、落葉の布団にしたり等、子どもたちが草花や葉を遊びに取り入れて楽しむ様子が見られました。

(成果)

花壇の草花の種類を豊かにしていきました。ホワイトボードで遊びを紹介することで、子どもたちがやってみたいと思うワクワクした気持ちが高まり、保育者から幼児部の子どもたち、幼児部から乳児部の子どもたちへと遊びの輪が広がりました。

(次年度に向けて)

多年草を植えたり、実を付ける木を植えたりして花壇を豊かにしていき、草花や葉っぱを使った遊びを子どもたちと一緒に、一年を通して楽しめるようにしていきたいと思います。



## 【虫の呼び込みの取り組み】

夏にはバッタが好んで食べるエノコログサ（ネコジャラシ）が園庭にたくさん生えました。そこで、職員が家の近くで捕まえたバッタを子どもたちと一緒に放虫してみました。すると、次の日も気にして「まだいるかな」「赤ちゃん生んでくれるといいね」と探しにいく姿が見られました。2学期からは「とうきょう すくわくプログラム」とも連動して、5歳児ふあいと組を中心に講師の先生との観察会等を通して、虫を呼び込むために必要な環境を知ったり、捕まえたバッタやコオロギを展示し、全園児が観察を楽しめるようにしたりしました。また、子どもが自由に使えるカメラを購入し、ふあいと組の幼児が見付けた虫を写真に撮り、その場で印刷してボードを使ってみんなに知らせることを楽しむ中で、より虫に関心をもてるようになりました。

(成果)

子どもたちが保育者と一緒に虫探しを楽しみ、ボードでどんな虫が見付けられたかを知らせたり、虫を観察したりできる環境を作ったことで、乳児・幼児ともに虫に関心をもつ姿が増えています。

(次年度に向けて)

- ・引き続き、「とうきょう すくわくプログラム」と連動させ、多くの園庭環境作りに関わっている業者と連携して、虫を呼び込みやすい園庭環境作りを子どもたちと進めていきます。
- ・幼児用カメラやマイクロスコープを使って、子どもたちが虫探しや観察をより楽しみ、探求心を刺激したいと思います。



## 【ごっこ遊びの取り組み】

ごっこ遊びの玩具や場づくりの道具の整備も前期に引き続き行ってきました。

園庭のキッチン道具を整えたり、マルチパネル（組み立てて乗り物や家にできる大型ブロック）やゴザやドリンクケースで場づくりに使えるものを用意したりしてきました。また、近隣の園からいただいた大型積み木の椅子をペンキで塗り直し、子どもたちがごっこ遊びの場づくりで使えるベンチ型の積み木を用意するとともに、扱い方についてもホワイトボードを使って子どもたちに知らせました。

新しい物が増えていることに気が付き遊び出す姿や、使う物の形等からイメージを広げて様々な使い方をする姿が見られます。例えば、椅子として使うだけでなく、ベンチの板の下に砂のご飯を入れて冷蔵庫のイメージにしてみたり、靴をしまって靴箱にしたりしています。



（成果）

ごっこ遊びの道具（様々な調理器具等）が、本物に近いものが増えたことでイメージを広げて遊び出す姿が増えています。遊びの道具だけでなく、場作りの物が増えたことでよりごっこ遊びを楽しむ姿が増えました。

（次年度に向けて）

ごっこ遊びの玩具や場づくりの道具の整備などを今後も継続していきます。充実したごっこ遊びができるよう、玩具だけでなく、場づくりにも力を入れ、子どもたちがよりイメージを広げられるように進めていきます。

## 【運動遊びの取り組み】

しっぽとりの縄や、乳児用の遊具の置き場所を整理し表示を付けてわかりやすくしました。また、運動会後から、子どもたちの“挑戦してみたい！”を引き出す、自転車やホッピング等の遊具を用意しました。自転車は、雨天でも濡れずに収納でき、子どもが自分たちで取り出して使えるように、サイクルハウスを購入・設置しました。自転車とホッピングは使用する際の約束事や片付け方等を「運動遊び」の担当者がまとめたものを、担任から指導してもらいました。3学期には、竹馬を6組出し、こちらも使い方や片付け方をみんなで共通にすることで、短時間保育、長時間保育、預かり保育のどの保育の中でも使用できるようにしました。

また、各学級で行っている運動遊びを、「運動遊び」グループの取組内容を伝えるホワイトボードを通じて他クラスに発信できるように、12月からボードの作成を分担制にしました。運動遊びに使う遊具のメンテナンスや整理等も同様に、職員間で分担することで、子どもたちが園庭で運動遊びがしやすい環境の維持に努めています。

（成果）

遊具を使用した後に、写真を見ながら元の場所にきちんと片付ける幼児が増えました。自転車や三輪車をする場所、鬼遊びやホッピング、縄跳びをする場所を分けて遊ぶことが、子どもたちの中でも少しずつですが定着していき、安全に遊べるようになりました。新しく出した遊具に関心をもち、自分なりに挑戦しようとする様子も見られます。

（次年度に向けて）

時期に合った遊具の入れ替えやメンテナンス、園庭整備などを今後も継続していきます。また、子どもたちが気軽に運動遊びに取り組めることを願って2月中旬に『挑戦ビンゴカード』を取り入れました。幼児で楽しんで取り組み始めているので、子どもたちの様子に合わせて調整・改良し今後も活動・挑戦意欲を促す取り組みをしていきたいと考えています。

